

# プログラム

**オープニング** ぜんぶ さくらももこ 詩 相澤直人 作曲

## 第1ステージ 北の風に寄せて ～平和への祈り～

キーウの鳥の歌 ウクライナ民謡 韓庚姫 混声4部編曲 木内宏治 詩  
アムール河の波 M.キュッス 作曲 V.サカロフ 編曲  
鶴 K.ワシリエフ&S.ポポフ 作詞 合唱団白樺 訳詞  
フレンケリ 作曲 リツヴェンコ 編曲  
ガムザトフ 作詞 櫻井武雄 訳詞

交響詩「わが祖国」より  
モルダウ スメタナ 作曲 岩河三郎 編曲 岩河三郎 作詞  
ダニー・ボーイ アイルランド民謡 猪間道明 編曲 なかにし礼 作詞  
(ロンドンデリー・エア)  
フィンランディア シベリウス 作曲 曾我大介 編曲 関忠亮 訳詞

指揮 韓庚姫  
ピアノ 岡田典子

## 第2ステージ 混声合唱組曲「君死にたまふことなかれ」

不思議の街 石若雅弥 作曲 与謝野晶子 作詩  
唯一の間  
君死にたまふことなかれ

指揮 石若雅弥  
ピアノ 岡田典子

## 休憩

## 第3ステージ エンジョイ (Opera) コーラス

歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲より  
アヴェ・マリア P.マスカーニ 作曲 江上孝則 編曲 しげもとまさあき 日本語詞

歌劇「ナブッコ」より  
行け我が思いよ、金色の翼に乗って G.ヴェルディ 作曲

歌劇「タンホイザー」より  
タンホイザー行進曲 ワグナー 作曲 市川都志春 編曲 韓庚姫 混声4部編曲  
福田三岐夫 作詞

歌劇「イーゴリ公」より  
ダットン人の舞踏と合唱 A.ボロディン 作曲 津川圭一 訳詞・編曲

歌劇「カルメン」より  
闘牛士の歌 G.ビゼー 作曲 堀内敬三 訳詞

喜歌劇「メリー・ウィドウ」より

メリー・ウィドウ・ワルツ

F.レハール 作曲 韓庚姫 混声4部編曲 堀内敬三 訳詞

喜歌劇「こうもり」より

シャンパンの歌

J.シュトラウス2世 作曲

指揮・MC

阿部 良行

ピアノ

岡田 典子

演出

奥野 芙紀

## 曲目解説

### 第1ステージ 「北の風によせて」 ～平和への祈り～

今なお戦いに苦しむ人々を想い、一刻も早い平和への祈りを、このステージの曲すべてに心を込めて捧げます。

#### 「キーウの鳥の歌」

ウクライナ民謡とも歌謡曲とも言われ親しまれているこの曲は1984年に北海道合唱団がウクライナの首都キエフ（今のキーウ）を訪れた時に歓迎会で演奏された原曲を日本に持ち帰り同合唱団の指導者であり作曲家の故木内宏治氏が日本語で歌詞をつけ日本でも歌われるようになった曲です。

#### 「アムール河の波」

アムール河を讃える現地民謡にロシア語で歌詞をつけ、その曲をもとに当時東シベリア連隊の楽団長キュッスが作曲しました。彼が亡くなった1944年にハバロフスク極東軍の指揮者ルマンツェフが歌詞を付けさせ赤軍合唱団向けの合唱曲に編曲。日本の合唱団白樺が「アムール河の波」のメロディに日本語の歌詞を付けて以来広く歌われるようになりました。

#### 「鶴」

当時、旧ソビエト連邦の一つだった小さな自治共和国ダケスタンの詩人ガムザトフは1965年の広島原水爆禁止世界大会に出席し、佐々木禎子の千羽鶴の話に感銘を受け、帰国後戦争で亡くなった人々特に兵士を悼んで、アヴァル語で詩を作りました。その詩がN.グレーブネフによって露訳され、この詩を見た歌手のマルク・ベルニェスがヤン・フレンケリに作曲を依頼し、1968年に発表されソビエトのみならず国際的に脚光を浴びました。フレンケリはキーウ生まれの作曲家。

#### 「モルダウ」

1874年から1879年にかけて作曲されたこの曲は国民的作曲家スメタナによる連作交響曲【わが祖国】の第2曲。当時のチェコはオーストリア帝国の支配下にあり母国語で曲目を付けることが出来ませんでした。スメタナのチェコへの愛国心が込められているこの曲は、短調から始まりますが、モルダウはボヘミアを南から北に流れ二つの水源の〈川〉が合流して〈河〉になるあたりから長調の華やかなメロディになります。これはチェコ民族の独立と勝利を表していると言われていています。

#### 「Danny Boy (ロンドンデリーエア)」

18世紀から伝わる古いアイルランドの旋律に基づく歌詞のない器楽曲（ロンドンデリーエア）には様々な歌詞がつけられていますが、その中でも「ダニー・ボーイ」が最も有名。

第1次世界大戦の前半1913年に発表されました。イングランドの弁護士フレデリック・ウェザリーが作詞。出兵する子供を想う親の切ない心境が描写されています。

## 「フィンランディア」

ジャン・シベリウスが1899年に作曲した交響詩。当時フィンランドは帝政ロシアの圧政に苦しんでいました。フィンランドの独立を願うシベリウスは同曲を愛国歌としましたがロシアは演奏禁止処分に。日露戦争でロシア帝国が崩壊しロシア革命に乗じてフィンランドは独立を果たしますが、1939年にソビエト連邦がフィンランドを侵略（冬戦争）。1941年からの継続戦争で領土の一部を奪われてしまいます。「フィンランディア」のメロディに愛国的な歌詞がつけられ「フィンランディア賛歌」として今日においても第2の国歌的存在で歌われています。

韓 庚姫

## 第2ステージ 混声合唱組曲「君死にたまふことなかれ」

前回、2019年6月の第13回定期演奏会では、拙作『このみちをゆこうよ』（詩：金子みすゞ）を客演指揮で演奏させていただきました。その直後から第14回定期演奏会のお話をいただき、「次は『君死にたまふことなかれ』を！」と準備を進めつつありました。が、コロナの影響で私のスケジュールに合わせてホールを予約していただいたにも関わらずそれが実現せず…という事が2度ほどありましたでしょうか。「もう無理かもしれないなあ」と内心諦めかけていたところ、再度「ホールを予約したい」とご連絡をいただき、そこから練習を重ねて今日のこの日を迎えることができました。コロナに負けずに活動を続けられている、かつらぎ会合唱団の皆さまの熱意に励まされるよう、演奏を頑張ります。

さて、本日演奏します『君死にたまふことなかれ』は、『このみちをゆこうよ』と同時期、私が20歳代半ばの頃の作曲作品です。詩は与謝野晶子。日露戦争時、戦地へ向かう弟への思いを綴った詩です。

私の母校、大阪府立泉陽高等学校内には『君死にたまふことなかれ』の歌碑があります。晶子が泉陽高校の前身である〈堺市立堺女学校〉の出身ということもあり、私が高校に通っている頃から晶子は馴染みのある存在でした。私が高校生当時、晶子の命日（白桜忌）の前後には「晶子リサイタル」というイベントが毎年開かれており、晶子の詩に曲がつけられた様々な作品が演奏されていました。司会は浜村淳さん。そしてフィナーレでは吉田隆子さん作曲の『君死にたまふことなかれ』の大合唱で幕を下ろす、というのが慣例でした。

しかしリサイタルは縮小傾向になり、出演していた合唱団も高齢化が進み…。そんな中、また新たな息吹で盛り上げようと主催の「与謝野晶子倶楽部」から吉田隆子版を新たに「編曲」してほしいという依頼を受けました。吉田版は元々オペラ（未完成）の中の一曲（独唱）として作曲されました。作られたのが1949年ということでその時代背景もあるのかもしれませんが、テンポも遅く、重々しく、暗く…という印象でした。それを合唱編曲されたものをそれまで演奏していたわけですが、2004年の「君死にたまふことなかれ発表100年」を機に合唱はもちろんピアノ伴奏も変え、間奏や転調を加えたり…と若い高校生たちにも歌いやすいように編曲しました。

その石若編曲版も好評をいただいたのですが、権利の関係で楽譜の出版も難しく、折角作ったのに広まらない…どうせなら新たに作曲してはどうか、という流れから2007年に今作『君死にたまふことなかれ』の委嘱の話をいただきました。

作曲の際の苦労話としては、それまで演奏されていた吉田隆子版との違いを出すのが一番悩んだことかもしれません。決して「速く、軽く、明るくする」ということではなく、石若編曲版の流れを引き継ぎつつ、新たに2曲加えた「組曲」として完成させました。機会がございましたらこれらの色々な『君死にたまふことなかれ』を聞き比べてみても面白いかもしれませんね。

日露戦争から100年以上経った今でも世界では戦争が続いています。この作品が、また平和について考えるきっかけになればと願います。

石若雅弥

### 第3ステージ エンジョイ (Opera) コーラス

アヴェ・マリア 歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より

マスカーニ (1863~1945) イタリア

シチリアの山間部を舞台にした1幕物オペラ。三角関係のもつれから悲劇的結末を迎えるストーリー  
アヴェ・マリアは元々1部と2部の間にオーケストラとオルガンで演奏される美しい間奏曲にソプラノ・ソロとコーラスをつけ編曲したもの。

行け我が思いよ、金色の翼に乗って 歌劇「ナブッコ」より

ヴェルディ (1813~1901) イタリア

旧約聖書に登場するバビロニアとヘブライの争いで、バビロニアの暴君ナブッコに捕らわれたヘブライ人たちが足の鎖を引きずり、強制労働に苦しみながら故郷のエルサレムを想い歌う。

タンホイザー行進曲 歌劇「タンホイザー」より

ワーグナー (1813~1883) ドイツ

13世紀はじめのドイツ。チューリングェン・ワルトブルグ城で騎士たちによる歌合戦が厳かに始まる。  
この勇壮な入場のコーラスが会場を盛り上げる。

ダッタン人の舞踏と合唱 歌劇「イーゴリ公」より

ボロディン (1833~1887) ロシア

12世紀。建国時代のロシア、イーゴリ公が南方の草原地帯で勢力を拡大するダッタン人と戦う。  
イーゴリ公は敗れるが、敵将コンチャック公に見込まれ歓迎の宴がもたれる。

闘牛士の歌 歌劇「カルメン」より

ビゼー (1838~1875) フランス

1820年頃のスペイン、セビリア。多情で色気あふれる女性カルメンに振り回される男たち。  
ついにスペイン女性の憧れの的である闘牛士をも陥れるが・・・

メリー・ウィドウ・ワルツ 喜歌劇「メリー・ウィドウ」より

レハール (1870~1948) オーストリア=ハンガリ帝国

20世紀はじめ、東欧の小国ポンデヴェドロ国 (架空) の裕福な未亡人で今はパリに住むハンナをめぐり、恋と財産の行方が面白おかしく語られる。

シャンパンの歌 喜歌劇「こうもり」より

ヨハン・シュトラウスⅡ (1825~1899) オーストリア

1874年大晦日オーストリアの温泉地イシュール。以前仮装舞踏会の帰りに酔った友人を「こうもり姿」のまま森の中に置いてきた男が、友人から手の込んだ大笑いの仕返しをされる。

阿部良行